




送配電部門における仕様統一化と
調達改革に向けた取組について

2019年3月29日
九州電力株式会社

- 近年の電力需要は省エネの進展などにより伸び悩む一方で、送配電設備に関しては、高経年化設備の更新や再生可能エネルギー導入拡大への対応が増大する見込みです。
- こうした事業環境の変化に対応し、今後も安定供給を確保しながらネットワークコストを最大限抑制するためには、更なる効率化を推進し、費用を削減していく必要があります。
- 当社は、これまでも仕様の合理化や発注方法の工夫・改善による費用削減に取り組んでまいりましたが、この度、一般送配電事業者各社との仕様統一化による、更なる効率化に向けた取組のロードマップを策定しました。

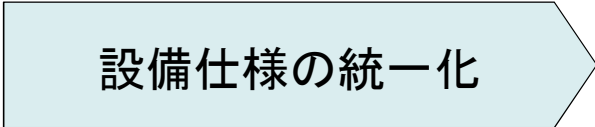
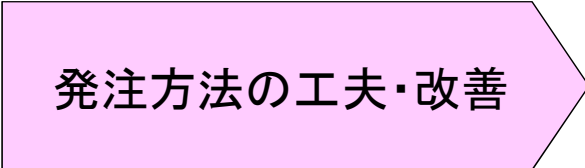
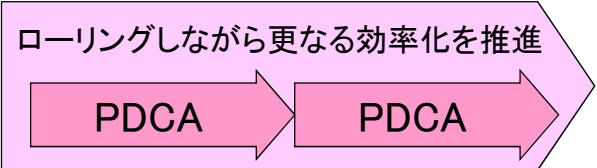
- 当社は、既存の送配電設備との整合性等の観点から、比較的仕様統一化の実現可能性が高く、一定の調達規模がある以下の3品目について、一般送配電事業者各社との仕様統一化に取り組みます。

対象品目	イメージ図	設備概要	統一化の方向性
架空送電線 (ACSR/AC)※1		<ul style="list-style-type: none"> ・ 主に発電所と変電所、または変電所間で電力を運ぶため、鉄塔に架線して使用する電線 	2つの仕様あり ↓ 仕様統一化
ガス遮断器 (66kV)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 主に変電所において、絶縁性のあるガスを用いて電流の開閉を行う装置 	10社個別仕様 ↓ 仕様統一化
地中ケーブル (6kV CVT)※2		<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市部等において、主に変電所からお客さまへ電力を運ぶため、地下に埋設して使用するケーブル 	10社個別仕様 ↓ 仕様統一化

※1：アルミ覆鋼心アルミより線

※2：トリプレックス形架橋ポリエチレン絶縁ビニルシースケーブル

- 2019年度末までの仕様統一化の完了に向けて取り組みます。
- その上で、他社との共同調達も含めて発注方法の工夫や改善に取り組むことにより、更なる調達コストの低減を目指します。

	2018	2019	2020	2021	2022
① 仕様統一化の取組 (P. 4)		 <p>設備仕様の統一化</p> <p>2019年度末を目途に、仕様を統一化します。</p>			
② 発注方法の工夫・改善 (P. 5～7)		 <p>発注方法の工夫・改善</p> <p>仕様統一化の進捗状況を踏まえ、スケールメリットを活かした競争発注や、サプライヤーの生産効率化等によるコスト低減に取り組めます。</p>		 <p>ローリングしながら更なる効率化を推進</p> <p>PDCA → PDCA</p> <p>新規取引先の開拓や複数年契約の実施等に取り組めます。</p>	

[架空送電線(ACSR/AC)]

- ACSR系電線には、一般的に使用されているACSRと、より耐食性を高めたACSR/ACがあり、当社は、海に囲まれた地域環境を考慮し、ACSR/ACを標準的に採用しています。
- 今後は、当社が保有するACSRの腐食に関する知見を全国大の検証に提供するなど、ACSR/ACへの仕様統一化に向けた取組に積極的に参加してまいります。

[ガス遮断器(66kV)]

- サプライヤーの製造工程の効率化やスケールメリットによるコスト低減に向けて、66kVガス遮断器の各社仕様を統一します。
- 各社の現状仕様を把握し、標準仕様を検討することでスケールメリットを拡大します。
- 新設のみならず、設備更新の機会を捉えて、既設についても標準仕様で対応してまいります。

[地中ケーブル(6kV CVT)]

- サプライヤーの製造工程の効率化やスケールメリットによるコスト低減に向けて、6kV CVTケーブルの各社仕様を統一します。
- 各社の知見を反映した試験方法、材質等の各社個別仕様を取捨選択し、標準仕様を設定します。
- 新設のみならず、設備更新の機会を捉えて、既設についても標準仕様で対応してまいります。

- 設備仕様の統一化・標準化による、品目毎の調達環境の変化を踏まえ、調達コスト低減に向けて取り組んでまいります。
- 具体的には、更なる競争環境の活性化を図るため、デリバリーやメンテナンス体制等を確認しながら、新規取引先の開拓に取り組んでまいります。
- また、サプライヤーの生産効率化によるコスト低減につなげるため、複数年契約の実施に取り組んでまいります。

3. ロードマップ (② 発注方法の工夫・改善)

6

〔目標設定〕

- 「仕様統一状況」、「競争拡大」、「調達の工夫」の観点から目標を設定し、2022年度までに達成を目指します。

分類	項目	説明 (年度比較)	実績値(2018年度)			目標値(2022年度)		
			架空 送電線 (ACSR/AC)	ガス 遮断器 (66kV)	地中 ケーブル (6kV CVT)	架空 送電線 (ACSR/AC)	ガス 遮断器 (66kV)	地中 ケーブル (6kV CVT)
仕様統一状況	統一化 品調達 割合	仕様統一品の購入(個別仕様品の排除)によりコスト低減を目指す	100%	—	—	100%	100%	100%
競争拡大	競争発 注比率	競争環境構築・維持によりコスト低減を目指す	97%	100%	95%	100%	100%	100%
	取引先 拡大数	競争環境の活性化を図る ※()内は延べ取引先数	— (3社)	— (5社)	— (2社)	1社以上 (4社)	1社以上 (6社)	4社以上 (6社)
調達の 工夫	施策実 施率	各社で実施している調達の工夫を展開し、コスト低減を図る (P. 7) ※()内は施策の実施数	67% (4/6)	67% (4/6)	67% (4/6)	100% (6/6)	100% (6/6)	100% (6/6)

3. ロードマップ (② 発注方法の工夫・改善)

- 今回対象の3品目については、当社はこれまで、「まとめ発注」、「早期発注」、「シェア配分競争」を実施するなど、効率化に取り組んでまいりました。
- 今後は、「新規取引先の開拓」や「複数年契約」を行うなど、更なるコスト低減を目指し、引き続き取り組んでまいります。

発注施策 (買い方)	内容	実施状況 (○:実施済、—:未実施)		
		架空送電線 (ACSR/AC)	ガス遮断器 (66kV)	地中ケーブル (6kV CVT)
新規取引先 開拓	競争環境の活性化のため、国内外から 新規取引先を開拓	—	—	—
まとめ発注	契約時期を合わせて調達量を増やし、ス ケールメリットを得る(共同調達を含む)	○	○	○
早期発注	取引先の生産計画平準化を目的として、 概略設定の段階で早期に発注	○	○	○
シェア配分 競争	複数の案件をまとめて提示し、競争結果 に応じて取引先にシェアを配分	○	○	○
コスト低減提案 の募集	技術提案に限定せず、調達方法など調 達全般に関するコスト低減提案を募る	○	○	○
複数年契約	通常の契約期間を長期化することで、優 位な条件にて契約する施策	—	—	—